

活動分野	森に親しむ野外講座（県内）第1回		
タイトル	勝浦・鵜原理想郷に房総の春を訪ねる		
実施日時	平成31年4月23日（火） 8時 ～ 4時30分		
実施場所	千葉県勝浦市吉尾 鵜原理想郷		
受講者	37名（内現地参加2名）	FIC会員他スタッフ	6名

活動の内容

雨の心配のない朝となり、参加者の方も早くから集まって時間通りに千葉を出発することができました。道中、鵜原理想郷という名所の由来となった後藤杉久の半生、理想郷を訪れた文人達、理想郷で見ることのできる震洋にまつわる戦跡・イワシ漁跡などについて説明しました。車窓からは様々な緑色が重なり合う木々の芽吹きがまぶしく、早速、春の訪れを感じさせるようでした。

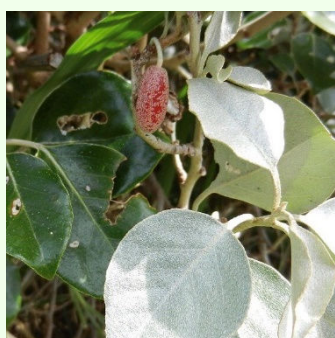
予定通り10時に分館海の博物館に到着、準備体操ののち出発です。春の野草、木々を観察しながら、暗く長い隧道を抜けると、日本の渚100選に選ばれている鵜原海水浴場が目の前に広がります。徐々に日差しが戻り、白い鳥居とエメラルドブルーの海に、しばし足をとめて見入りました。

三島由紀夫『岬にての物語』文中に出現する弁天様を横目に、黄昏の丘を目指します。黄昏の丘では、コケリンドウが一面に咲く中での昼食となりました。眼前に広がる明神岬では、たわわに実をつけたオオバグミと、満開の花をつけたマルバアキグミの違いを観察、スミレ、ヒメハギ、ウラシマソウなども見ることができました。グミは星状毛が特徴なので、接眼レンズをつけたスマホで撮影、拡大してみると、星形をしているのがよく分かります。またここでは、石切り場やイワシ漁の跡なども見え、鵜原の由来となったともいわれる鵜原島にはウミウが多く休んでいるのも観察できました。

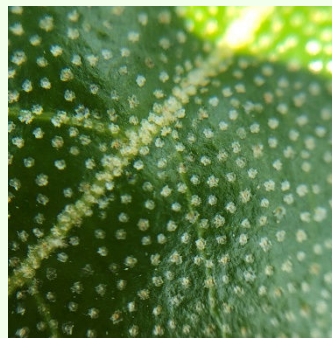
手弱女平岬に移動すると、数年前に埋蔵文化財包蔵地となった故の縄文土器片を見ることができ、いにしへの歴史に思いを馳せました。その後、ヒメユズリハやトベラ、ヒメコウゾ、シャリンバイなどの花を見たり、匂いについてあれこれ話をしながらゴトガエリまで下ると、アマモの群生が青い水面に広がっていました。海の博物館までの道のりでは、イソヒヨドリ of 涼しげな音色に耳を澄まし、クサノオウのまぶしい黄色の花に見とれたりしながら歩き、房総の春を五感で感じながら、予定より早く帰路に着くことができました。



後藤杉久顕彰碑
の前で解説



オオバグミの実



グミの星状毛



土中の縄文土器片